永井医院ニュース

LIFE 59

ミニライフ

2018年11月号

No. 59

発行／最上郡最上町向町536−9
内科:循環器科
医療法人　永 井 医 院
TEL.0233−46−1511
http://www.nagai-clinic.or.jp

特集
開院20周年

開業時を振り返って

経理　永井和江

永井医院はおかげさまで今年 20 周年を迎えました。患者さんや地域の方々、取引先の業者さん、スタッフの皆さんに深く感謝を申し上げます。

平成 10 年 5 月に地鎮祭を行い、11 月の開業までに余裕をもって建物が出来上がる予定でした。しかしその年は雨が多く、出来上がったのは開業ぎりぎりでした。11 月 3 日の文化の日に内覧会を開いて、地域の方々に院内を見ていただきました。銀色の医院は窓ガラスが大きく、吹き抜けで、太陽の光が燦々と差し込みました。白い内壁に青いドア、「ホテルのロビーのようにしたい」という院長の提案でテレビは設置せず、静かな待合室でした。開院祝いにいただいたたくさんの観葉植物が待合室に飾られていたので、「植物園みたいだね」と言われました。

スタッフは院長、事務長、医療事務、看護師 2 人、検査技師と私の 7 人でした。医療事務の大場かおりさんと私は医療事務未経験だったため、通信教育で勉強し、レセコン（保険診療のためのパソコン）の使い方や患者さんの対応の仕方などの講習を受けて準備をしましたが、医院の完成が遅れたため十分な診療の流れの練習を行う時間がないまま、11 月 4 日の診療開始となってしまいました。初日は 33 人の患者さんが来院されましたが、全員が初診ですので、カルテ作りから会計までものすごく時間がかかってしまいました。12 時を過ぎても午前の診療が終わらず、昼休みもとれずに午後の診療時間に突入しました。待合室にオレンジ色の夕陽が差し込む時間になり、「そろそろ帰って夕飯、つぐらなんねなぁ」と話す患者さん。長時間お待たせしてしまい、申し訳ありませんでした。院長の診察を受けた患者さんから、「やっさすい先生だこど～、わっがいね～」と声をかけていただきましたが、当時の写真を見ると本当に若かった。（笑）

あれから 20 年、紙カルテは電子カルテに変わり、受付から診察終了、会計までの時間が短くなりました。患者さんの送迎を行ったり、物療室や点滴スペースの拡張、新しい医療機械の導入、駐車場の拡張など、いろいろと環境を整えました。最新の医療知識を得るため、職員には学会や研究会、講習会への参加や発表を推奨しています。また、地域の方たちと直接お話しできる地域懇談会や、保育園で手洗いとうがいの衛生指導などを行って、健康に関する啓もう活動もしています。現在のスタッフは 21 人で、半数が勤続 15 年超えのベテランです。これからも良質な医療サービスを提供し、地域に貢献できて、皆さんに愛される医院を目指し、努力してまいります。よろしくお願いいたします。

開院 20 周年記念特別取材　ライフクラブ復活!!

事務　竹澤優子

ライフ 8 号から 32 号まで 20 回続いたライフクラブを今回特別に復活いたしました。特別号である今回は、永井院長の中学校時代の恩師である高橋清明さんから、院長の中学校時代から開業した時までのことなど、恩師としての思いをお伺いしました。

Q1 永井先生の中学校時代のエピソードを教えて下さい。

私は美術の教師で、永井君の中学 2 年生と 3 年生の時の担任でした。3 年生の時、他の生徒は受験勉強をしている冬の時期、永井君はクロスカントリーに一生懸命取り組んでいました。しかし勉強する時はしっかりしており、他の生徒は毎日復習をしている子が多い中、永井君は予習が多く教科書はすべて読んで来る子で、予習してわからないところを先生に聞いてメモにとり理解して、学習する生徒でした。絵もうまく、美術的センスもあり、勉強、スポーツなどオールマイティだったことを覚えています。教室では、みんなと楽しくワイワイやっていました。今も、同窓会に呼ばれることがありますが、今も昔と変わらず楽しそうにしているのが印象的です。

Q2：永井先生が医師になる夢を持ったのはいつ知りましたか？

中学校時代は、医者になりたいというのは聞かなかった気がします。山形東高校を受験したいと言った時は、成績も充分だったので何も心配していませんでした。高校卒業後に医学部に進学したと聞いた時は、何も不思議には思わなかったことを覚えています。頑張っているなと思いました。

Q3：永井先生が医師になったと聞いた時、どう思いましたか？

永井君が医師になって町立病院に赴任してきた時は、永井君に診てもらいたくて転院しました。教え子に診てもらうことはとてもうれしく安心していました。そのあと、数年後に最上町に開業すると聞いた時、永井君を追いかけるようにまた転院して“永井医院”で永井君に診てもらおうと思っていました。

Q4：開業して初めて受診した時の気持ちと、これからの思いを教えて下さい。

玄関に入った時、当時では珍しく玄関からバリアフリーにしており、新しい病院の施設の在り方を率先しているのかなと思いました。私は美術の教師だったので壁に飾ってある絵画にも目がいき、当時から素敵な絵ばかり飾っているなと思っています。これからも永井君には、最新の医療を勉強しながら最上町の医療機関として頑張ってもらいたいです。

高橋清明先生、励ましのお言葉どうもありがとうございました。（永井俊一）

永井医院の 20 年のあゆみ

検査　中鉢由香

1998 年

11 月 4 日
開院

院長を含め 7 名の職員で永井医院はスタートしました。

丸岡先生による大腸内視鏡検査開始

1999 年

送迎開始

リフト付きの送迎車でたくさんの患者さんを送迎しました。

ライフ創刊

2000 年

毎週金曜日 19 時までの延長診療
物療室と処置室の増築

2001 年

今田先生による腎臓外来

2002 年

画像ファイリングシステム導入

検査結果を動画でわかりやすく説明できるようになりました。

2003 年

第 1 回地域懇談会開催

院長の母校である富沢小学校で第 1 回目を行いました。

未就学時優先診療

2004 年

デイサービス
はっぴぃ開設

院長が超音波指導医に認定

院長指導のもと、検査技師 3 人が超音波検査士の資格を取得しています。

2005 年

美容外来

2006 年

禁煙外来
電子カルテを導入し待ち時間を短縮

診察終了から会計までの待ち時間が劇的に短くなりました。

2007 年

毎朝 7 時 30 分からの早朝診療

2008 年

開院 10 周年

2009 年

医院の大改造

感染症疑いの患者さんを診察する第 2 診察室を新設しました。

金曜日 20 時までの予約制夜間診療開始

遠方でお仕事されている方が仕事帰りに受診していただけるように始めました。

2010 年

最上町に医療従事者を目指す学生のための奨学資金を寄付

渡邉先生が土曜日の代診

ちっくんクラブ制度を新設

定期接種として認められていない予防接種の金銭的な負担を軽減し、接種を促す目的で始めました。

2011 年

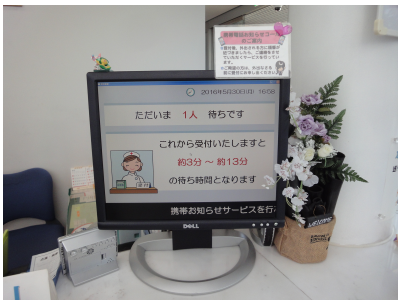
東日本大震災発生

地震発生時は診療中で院内には 10 名程度の患者さんがいらっしゃいました。突然の大きな揺れの中患者さんも職員も素早く避難し、皆さんが無事だったことに安心しました。その後、被災地へ義援金を寄付しました。

2012 年

待合室にキッズスペースを設置

待ち時間表示会計金額表示システム導入



体操教室

2015 年 12 月 11 日、約 4 年の間毎回通っていただいた方の卒業式を行いました。

小さなお子様連れの方専用駐車スペース

経鼻内視鏡導入

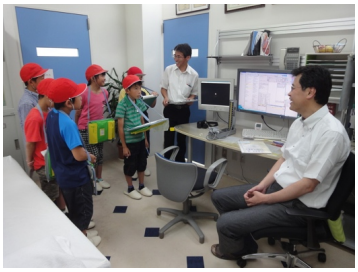
2013 年

院長が日本糖尿病協会療養指導医に認定

> 院長指導のもと、看護師 2 人が糖尿病療養指導士の資格を取得しています。

最上町ロードレース大会や最上カップサッカー大会に救護班として参加

7 月に月楯小学校の児童が、11 月に向町小学校の児童が職場見学に来院



減塩教室開催

開院 15 周年

2014 年

カロリー教室開催

町内の保育施設に出向き手洗い指導

> 2016 年 7 月 2 日の山形新聞にあかくら幼稚園での手洗い指導の様子が掲載されました。

2015 年

正面玄関や

待合室の床、

男子トイレの

リフォーム

集中豪雨で赤倉地区に浸水被害発生

> 避難所に義援物資（救缶鳥（パンの缶詰）を寄付。

山形新聞の“提言”に院長の記事が掲載

2016 年

レーザー内視鏡導入

> 特殊なレーザー光で早期がんが発見しやすくなりました。

facebook 開設

2017 年

管理栄養士さんによる栄養指導

> 毎週水曜日 9 時から予約制で行っています。

処置室のレイアウト変更

> 処置室内の通路が広くなり、車椅子が通りやすくなりました。

検査用昇降式の電動ベッド、

手すり付きの体重計を導入

> どの患者さんも安心して乗り降りできるようになりました。

レーザー経鼻・大腸内視鏡導入

2018 年

体組成計“InBody”導入

> 身体の部位別に筋肉量や脂肪の量を測定できます。いつでも無料で行っています。

2018 年 11 月　開院 20 周年

職員数は開院時の 3 倍になりました。

永井医院の思い出ランキングトップ３　看護師　間絵理

職員にこの 20 年間で何が印象に残っているかのアンケートを行いました。たくさん挙げられましたが、その中のトップ 3 を発表します。

医院改装と増築

外来の患者数が多くなったため、少しでも快適に過ごしていただけるように、2001 年に処置室、検査室、物療室、カルテ庫を増築しました。処置室と物療室の拡張、ベッドの増台、検査室の移動を行い、スペースの問題や点滴ベッド不足が解消されました。2009 年には、感染防止対策のため第 2 診察室を新設し、室内を陰圧に維持する装置を設置しました。菌やウイルスが拡散するのを防ぐことができますので、一般の患者さんに感染しないように、インフルエンザや他の感染症の疑いがある患者さんの診察は第 2 診察室で行っています。その他にも、キッズスペースを作ったり処置室のレイアウトを変更するなど、患者さんに快適にすごしていただける医院作りを、自分たちでたくさん考えてきました。

電子カルテ導入

2006 年 10 月から紙カルテを電子カルテに全面的にかえました。最上地域でいち早く導入した 1 番の目的は、「待ち時間の短縮」です。「外来待ち時間を 30 分以内にする」という目標を掲げ、紙カルテを探す手間がなくなったり、診察が終わると同時に会計処理が終わることで、待ち時間の短縮につながりました。当時は紙カルテの情報を入力するのに時間がかかったり、パソコンの使い方を覚えるのが大変でしたが、現在はスムーズに診療が行えていると思います。これからも、いろいろな取り組みを行い患者サービスの向上につなげていきたいです。

東日本大震災

診療中の大地震だったので、患者さん達を誘導して寒い外に避難しました。地震の数日前に避難訓練を行ったばかりだったので、協力し合いスピーディに行動できました。揺れがおさまって待合室に戻りましたが、停電で暖房も止まっていたため、患者さんには毛布を配布しました。地震のあとの停電は数日間におよび、準備しておいた自家発電を活用して診療を行いました。被災地から赤倉や瀬見に避難してきた方の心のケアのために往診に行ったことが忘れられません。自然の怖さと、日頃の訓練が大事であること、患者さんの気持ちに寄りそった診療がどれほど重要かを改めて痛感しました。

これからの思い

各部署より

看護師

これまで永井医院独自の視点で、当院だからできる患者サービスを考えてきました。そして、早朝診療や夜間診療、送迎、小児優先診療などを行い地域の方の生活に寄りそった診療をしています。新しい知識や技術を身に付け、患者さんに提供できるように努力していこうと思います。みなさんの身近な存在の医院でいられるよう、永井先生とともにがんばっていきます。また、これからも笑顔を忘れず患者さんの困っていることに耳を傾け、自分たちのできることを精一杯していこうと思います。

検査技師

20 年前と比べると医療機器は大きく進歩し、超音波検査ひとつ取ってもさまざまな計測法や機能が開発され実用化されています。これらの進歩に対して常にアンテナを張り、新しい情報を取り入れ、当院でできる限りの検査を患者さんに提供していきたいです。そのために、技師同士が切磋琢磨しお互いに成長していきたいと思います。

看護助手

物療室には、アクアラックス、カイネ、ホット、肩もみや足もみなどの機器があり、患者さんの体の痛みを和らげる場所になっています。物療が終わった後は「とても気持ちが良かった」「すごく楽になった」と言って頂き、私達もやりがいを感じています。また、患者さん同士も待っている間など自然と会話がはずみ、室内がなごやかな雰囲気になりリラクゼーションの場になっています。これからも、物療を利用する患者さんに満足していただけるよう、心のこもった対応をしていきます。

総務

私達が入職したのは 20 年前。若くして？永井医院に入職し、医院も開院 20 周年を迎えました。今では二人とも体も無理が利かなくなったと感じる年齢になってしまいました。送迎車は 20 年で 6 台目になり、走行距離は 1 台平均 55 万 km ですのでトータル 330 万 km になり、地球約 82.5 周分に相当します。私達は今後も安全運転第一を心がけ、患者さんの通院のお手伝いができたらと思います。もちろん私達の健康第一も…。

事務

私たちは、開院してから「患者さんファースト」を目標に、患者さんのためにできることを考え取り組んできました。足の不自由な方には直接そばまで行ってお会計をしたり、お薬の数が合わなくなった方の残薬を確認して調整したり、お子さんの待ち時間を過ごしやすくするために“キッズスペース”を設けたりなど、個々の患者さんに合わせた医療サービスを提案し実行してきました。今後も「患者さんファースト」を継続しつつ、何年たっても患者さんが安心して受診できるような、また最上町になくてはならない医院でありたいと思います。

院長

37 歳で開業した私も 57 歳になりました。一番困っているのは目が見えなくなってきたこと。とげが刺さった患者さんが来院した時に、とげを抜くのは看護師の仕事になりました。いずれはインフルエンザなどの注射も看護師にお願いするかもしれません（笑）。

さて、最上町の人口が減って当院の患者数も減少してきました。以前ほどお待たせすることがなくなりましたので、利便性は良くなったかもしれません。外来診療に少し余裕ができたので、これからの経営の柱に「医療を通じて社会に貢献する」ということを掲げました。地域に出て行って健康に関する啓蒙活動を行ったり、スポーツ大会のサポートなどを行っていきたいと思います。これからも頑張っていきます。

20 周年を迎え気持ちを新たに

職員一同

当院では開院 20 年を迎え、その節目として気持ちを新たに、これからの永井医院としての職員の“誓い”を立てました。職員全員で意見を出し合い、検討し納得のいくまで考えた、10 個の“誓い” です。

私 た ち の 誓 い

・患者さんやその家族の意思を尊重した医療を提供する。

・医療のプロである自覚と永井医院の職員としての誇りを持つ。

・目を見て丁寧な言葉づかいで、患者さんに寄り添った対応をする。

・身だしなみに気をくばり、笑顔で対応する。

・事故がなく、安全で安心して過ごせる医院づくりをする。

・研修会等にできるだけ参加し、学ぶ姿勢を大切にする。

・得た知識や技術を職員間で共有し、治療やサービスに活かす。

・向上心を持ち互いに認め合い、成長できる職場環境を築く。

・地域の方に愛され、信頼される医院を目指す。

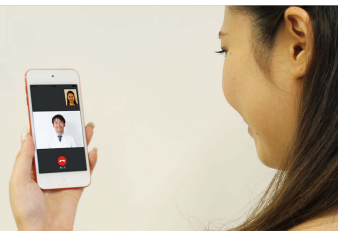
・医療に携わるものとして当院でできることを考え、積極的に活動する。

21 年目をスタートし、これからも 21 名の心を
ひとつにして歩んでいきたいと思います。
よろしくお願い致します。

永井医院　職員一同

オンライン診療について

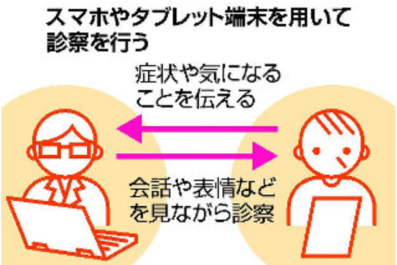
事務　竹澤優子



４月の診療報酬改定でオンライン診療が保険適応となり、当院でもオンライン診療を始めることになりました。オンライン診療とは、テレビ電話のようにパソコンやスマホなどを使って、患者さんと医師が画面を通して診療を行うことです。オンライン診療を行うには保険上の制約があり、全員に行えるわけではありません。

【オンライン診療を行える患者さんの条件】

・パソコンやスマホなど、インターネットにつながる機器を持っていること
・高血圧症や糖尿病、高脂血症などの患者さん（適応にならない疾患もあります）
・オンライン診療を開始する前の６か月間は、定期的に医師の診察を受けていること
・体の状態が落ち着いていること
・緊急時に 30 分以内に受診できること



【オンライン診療のメリット】

・通院の時間が不要で、待ち時間をあまり気にすることなく診療が受けられます

【当院でオンライン診療ができる曜日と時間帯】

・月曜日・木曜日：午後 17：00～18：00
・金曜日：午後 15：00～16：00　午後 18：00～19：00

【オンライン診療の手続き】

・定期受診時に医師に「オンライン診療を希望する」とお伝えください
・専用のアプリをダウンロードしていただきます
・カード決済のための手続きをしていただきます
・オンライン診療を行なう日時を予約していただきます

【オンライン診療の当日の流れ】

・予約の日時になったら、医師からパソコンで連絡がいきます
・診療が終わったら、決済画面でカード決済の手続きをしていただきます
・当院からご自宅に、処方箋を郵送いたします

【オンライン診療の費用】

・診察代、情報通信費、処方箋の郵送代など、１回の診療で約 3,000 円かかります

【注意点】

・お薬は１か月分になります
・オンライン診療は連続で２か月可能ですが、３か月目は医院を受診していただく必要があります（保険診療上のルールです）

詳しいことは、来院時に説明させていただきますので、お気軽にご相談下さい。

診 療 の ご 案 内

	月	火	水	木	金	土
午前	🟢	🟢	🟢	🟢	🟢	🟢
午後	🟡	休診	休診	🟡	🔴	休診

🟢 午前の診療は　7：30 から 12：00 です。

🟡 月木の午後は 14：00 から 18：00 です。

🔴 金曜の午後は 16：00 から 19：00 です。

・仕事で診療時間内に受診できない方のために、隔週で金曜日の 19：00 から 20：00 に予約外来を行っています。ご希望の方はお問い合わせください。
・土曜日は山形大学の今田先生（腎臓・膠原病専門）と渡邊先生（循環器専門）の外来があります。
（院長は休診になります）
・第3水曜日の午後は大腸内視鏡検査を行っています。一般の外来はありません。

編集後記

事務　竹澤　優子

永井医院は20周年を迎えました。今回のライフを見ても、20年間さまざまなことがあったなと思います。忘れられない出来事もありました。良いこともそうでないことも含めて、20年も経過したのだなと思います。

永井医院は、入職10年以上を超える職員がほとんどとなり、患者さんも知らない職員がいないほどになったと思います。入職当初も、今までも、これからも・・・変わらない対応を心がけていきたいと思います。また、現状に足踏みすることなく、時代に合わせて新しいことも取り入れながら、今後も職員みんなで永井医院を盛り上げていきたいと思います。

※10周年を迎えた時のメライフ29号Ｅでも編集後記を書かせていただきました。その時は8歳になる娘との10年後を夢見ていました。そんな娘も18歳になりました。4月に高校を卒業し、だんだん大人になっていく娘との時間を楽しんでいます。また10年後の子供達の姿を夢見ながら、日々頑張っていきたいと思います。（その頃には孫がいるかな～笑）